

第9回 菜の花通信



「第9回 菜の花通信の発行にあたって」

千葉県支部
支部長 中野 誠

新型コロナウイルスによる非常事態宣言が7週間ぶりに解除されました。解除に伴い、感染リスク軽減のための新しい生活様式が始まりましたが、会員の皆様にはいかがお過ごしでしょうか。あこがれの大学生活に胸を膨らませて新年度を迎えた1年生のみなさん、保護者の皆様には先の見えない不安の中にいることとお察しいたします。2年生、3年生にとっても夢に向かって一步進む時期。4年生は自立への挑戦の大切な時期に、誰もが予想しなかった事態が起っています。大学からは春学期授業の全面オンライン化の通知が出され、学生は自宅での学習を求められています。また、入学式をはじめとする行事の中止、キャンパスへの立ち入り制限など、大学の対応が示されています。

100年前、同じように世界を震撼させたスペイン風邪は、日本の総人口の約半数が罹患したと記録に残っています。当時はウイルスを確認する顕微鏡が発明されていなかったために、まさに未知の魔物との戦いでしたが、発源地と言われているアメリカ合衆国では、同じ州の隣り合う2つの都市で明暗を大きく分けた記録が残っています。S市はこの感染症を大変危険なものとしてとらえ、市長は「全ての劇場、学校、ホール、酒場、民宿、ダンスホールは次のアナウンスがあるまで閉鎖します。集会も日曜学校も禁止です」と指示を出しました。反対にP市は極めて楽観的にとらえ、病根絶のためのミサを奨励し、広場では第一次大戦の戦勝パレードまでおこなっています。結果は10万人あたりの死者はS市27名に対してP市の死者はその10倍にも迫る250名になり、世界的流行のきっかけを作ったといわれています。

文教大学が示したコロナ禍の対応は、まさに学生の命と健康を守ることを最優先に考えての苦渋の決断であったと思います。私たち保護者といたしましては、学生の学習環境を整えることと、心のケア、経済的支援などを合わせて支援をして参りたいと思います。

文教大学父母と教職員の会趣旨目的

学生たちのよきアドバイザーとして

大学生は自己や環境を認識して、大人としてのプライドを持っていますから、父母も教職員も、学生を大人として認めて、彼らの自主的活動を期待しています。しかしながら、何と云っても、まだ若年です。生活面でも、学習の面でも、父母と教職員が、よきアドバイザーとなる必要があります。

父母と教職員の密接な連携が必要であるため、設立されています。

利用にあたっては、年会費の振込みが必要となります。詳細につきましては「父母と教職員の会事務局」にお尋ねください。

越谷事務局 電話 (048-974-8811) FAX. (048-977-7791)
湘南事務局 電話 (0467-53-2111) FAX. (0467-54-5721)
E-mail : fubokyo@stf.bunkyo.ac.jp

令和元年度千葉県支部活動報告

千葉県支部総会

I部 支部総会

1. 前年度活動報告・会計報告
2. 今年度活動計画案・予算案
3. 新役員体制



会 長



支 部 長

II部 研 修 会

1. 千葉県教育庁 主幹兼任用室室長 鈴木任用室長より講演
「千葉県の教員採用の現状とこれからの教師像について」
2. 大学から健康栄養学部長 松村 先生
キャリア支援課長 小宮 先生に講演をして頂きました。



III部 個人面談

会員のお子様が所属するキャンパスの先生との面談

IV部 懇 親 会



千葉県支部研修会

海ほたる見学～YOKOSUKA軍港めぐり～ビール工場見学

賛助会員

穏やかな晴天の朝、船橋を7時過ぎに出発、蘇我経由でアクアラインへと出発しました。今回は初参加の方から賛助会員の先輩方まで、そして本部や埼玉県支部からのご参加もあり、39名での一日研修となりました。

行きのバス内では中野支部長の挨拶、新型肺炎対策に関わる諸注意などの後、参加者の自己紹介が続く和やかな雰囲気の中、アクアブリッジへと進みました。途中、レインボーブリッジでは生活用水確保のため沖へと出ていくダイヤモンドプリンセス号を目のあたりにし、バスの中に緊張が走りました。

バスガイドさんからのアクアラインの概要説明の後、海ほたるへ。風が無く、東京湾の眺めを満喫できました。そしてアクアトンネルを通過して川崎～横須賀へ。千葉県支部研修会初の県外研修へと向かいました。

軍港めぐりは45分ほどです。事前に船の入港の予定や停泊の情報などは公表されないの、そのときにならないとどんな船を見ることができるかわからないそうです。この日は停泊している船が多い日だったようで、たくさんの自衛艦や米軍のイービス艦、空母などを見ることができました。試験艦や爆弾撤去のためのプラスチック製の船などもありました。

昼食は横浜馬車道のイタリアンレストランにて、ゆっくりといただきました。ここでの時間が、お子さんの学生生活や就職についてなど、情報交換の場になったのではないのでしょうか。

最終目的地はキリンビール横浜工場。工場見学ツアーガイドさんの案内で、製造工程やおいしさの秘密そして試飲まで、映像や香り、五感を使ったあっという間の80分でした。

見学での研修はもちろん、往復のバス内や昼食時の会話の中で親睦を深められたこともとても有意義だったと思います。今回ご参加できなかった方も、次回は是非！



第9回 菜の花通信



【過去の研修】

平成25年度	成田空港整備工場、成田空港博物館、成田山新勝寺
平成26年度	銚子電鉄、犬吠埼灯台、ウォッセ21、伊能忠敬記念館
平成27年度	いすみ鉄道の旅
平成28年度	道の駅「保田小学校」、佐久間ダム、館山城、赤山地下壕跡
平成29年度	香取神宮、伊能忠敬記念館、水の郷さわら
平成30年度	濃溝の滝、菜の花豆腐店、大多喜城、大多喜ハーブガーデン
令和元年度	海ほたる見学、YOKOSUKA軍港めぐり、ビール工場見学

次回以降の研修場所のアイデアも募集中です。

《令和元年度千葉支部活動報告》

4月6日	第4回千葉支部役員会
5月19日	第5回千葉支部役員会（会報発送作業）
6月2日	父母のための一日大学（越谷・湘南）
6月23日	千葉県支部総会（ホテルプラザ菜の花）
8月31日	第1回千葉支部役員会（後期事業について）
12月15日	第2回千葉支部役員会・懇親会
2月8日	第3回千葉支部役員会・千葉支部研修会（視察研修）

《令和2年度千葉支部活動予定》

7月	千葉県支部総会（書面表決）
8月29日	第1回支部役員会（下期の行事について）
10月24日	父母のための一日大学・進路問題研修会（湘南校舎）
11月29日	父母のための一日大学・進路問題研修会（越谷校舎）
未定	支部研修会（6月開催予定の内容）
12月13日	第2回千葉支部役員会
1月30日	第3回千葉支部役員会・千葉支部研修会（視察研修）

総会の書面表決について

文教大学父母と教職員の会本部より、9月までは支部活動を休止するようにとのお知らせがありました。よって毎年6月におこなっていた支部総会を書面表決といたします。

当会報記載の活動・決算報告、活動・予算案、役員案をお読みいただき、諾否について同封の表決書（はがき）に記載の上返送してください。

恐れ入りますが8月14日（必着）までをお願いします。

支部ホームページでご覧になることもできます。

<http://www.bunkyo.ac.jp/etc/fubokyo/branch/detail.php?id=14>

資料閲覧にはパスワード「XXXXXXXXXX」が必要です。



新型感染症と闘った千葉の医師

～ 烈医 沼野玄昌 弔魂碑（鴨川市）～

幕末に中国大陸からコレラが上陸しました。この新しい病気は各所でクラスターを発生させながら明治初期に千葉県全域に感染を拡大しました。当時コレラの致死率は80%を超えていたため、県民は感染の恐怖に震え上がりました。

沼野 玄昌（ぬまの げんしょう）は佐倉順天堂で西洋医学を習得した医師で、政府から派遣されて、県内の防疫と治療に当たっていました。玄昌の防疫は当時としては奇抜で、患者を出した家とその周辺を石灰粉で徹底的に消毒しました。井戸に石灰を大量に投げ込む消毒法は明治の人の目には奇異に映りました。また、患者を隔離し、家族にも面会を許しません。今では感染症の治療として当たり前の隔離措置も当時の人々には全く理解されませんでした。

当時「西洋医は人の生き胆で薬を作っている」という噂があったため、玄昌が撒く白い粉を一部市民が毒薬であると思い、「生き胆欲しさに井戸に毒を入れ、患者をつくり連れ去るのだ」という噂が広がりました。



明治10年12月、クラスターが発生した安房の旅館を玄昌が消毒していると、暴徒化した数十人の住民が武器を持って取り囲み、玄昌を惨殺して加茂川に投げ込んでしまいました。

暴徒は逮捕されましたが、のちに真相を知って多くの者が精神を病み、中には自ら命を絶った者もいたと記録されています。住民はたたりを恐れ、遺体の見つかったこの地“汐留”に碑を建て、献花を絶やしませんでした。千葉県令（知事）柴原和と明治新政府の大久保利通（内務卿）がその死を悼んで弔祭金を下賜したと沼野家に記録が残っています。

鴨川市立汐留公園（鴨川市貝渚3270-1）
アクセス 安房鴨川駅徒歩15分（1 km）
参考文献：吉村昭著「コロリ」（礫）

私にとってボランティアとは

賛助会員

(人科卒)

皆さんの中でボランティアというと、どんなイメージがありますか。学生時代の私は「余暇を使い何らかの障害を持つ人々のためにお手伝いをする」という考えを持ち、実際に高齢者施設での活動に参加していました。しかし社会福祉科の学生だった私は授業の中で、ボランティアが「自由意志、自ら進んでやること、自己開発」であることを学んで行きました。その事を学んでも、当時の私は「助けてあげる」という気持ちが強く、どこか見下すような気持ちがあったように感じます。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響で延期が決定した東京オリンピック・パラリンピックですが、予定では千葉県でも2会場で8つの競技が行われることになっています。開催時期が決まりましたら私を含め10人の千葉県支部の人たちがその期間中に都市ボランティアとして活動をする予定です。

「都市ボランティア？」皆さんには馴染みのない言葉ですよ。私もこのボランティアに応募するまで、こんな形のボランティアがあることを知りませんでした。皆さんをご存知なくても当然だと思います。一般的にスポーツ大会におけるボランティアというと、競技会場で何らかの支援をすることがイメージされます。しかし、全世界的なスポーツ祭典には選手をはじめとした大会関係者が訪れます。また、それらの人だけではなく、旅行者や観客等の多く人も同時にその場所に訪れます。その様なすべての人に対して「おもてなしの心」を持ち、お迎えするとともに、明るく、楽しい雰囲気作りをしながら、主要駅や観光施設や空港などで訪問者に案内をすることや、手助けをすることが主な役割となります。そのためにボランティア参加予定者は研修や事前実習、Eランニングを現在受講しています。

積極的に一人で何かに参加することが苦手で、スポーツにも全く関わってこなかった私ですが、この活動をとおしスポーツにも関わられることを知りました。県内で行われるマラソン大会や千葉市で開催された国際的なスポーツ大会などにもボランティアとして参加することが出来ました。今年の1月26日には千葉県支部の3人の仲間と館山市で開催された「わかしおマラソン」のボランティアに参加することが出来ました。この参加にあたっては、昨年台風による災害の復興へのささやかな協力のため、前日から観光を兼ね宿泊しましたが、それによりこの災害の悲惨さや、今現在も残る傷跡を知ることになりました。最近テレビな

どによる報道の機会が減少していますが、現在でも自宅の修繕のめどがたっていない人も多く、塩害によっていつもは多くの花々で溢れている花畑が、まばらにしか咲いていない状況や、それに関わる人達の苦悩などを知る旅となりました。被災地に訪問しお金を使う事や、災害の現状を知り、それを離れた場所に住む人達に発信することもボランティアの1つではないかと考えさせられました。

私は文教大学の千葉県支部の活動を通し、多くの友人に出会うことが出来ました。都市ボランティアの活動もその1つですが、それだけではなく、旅行やスポーツ観戦、音楽鑑賞、地域散策など、大人になると個人でしかできなくなることを、多くの友人と共に活動でき、日々の暮らしの中の潤いにまで発展させることが、この活動を通し出来ています。大きな意味では千葉県支部の活動もまた、対象者が自身の子どものためではありますが、ボランティアであり、自分を見つめ直す機会ではないかと私は思います。

最後に来たるべき東京オリンピック・パラリンピックの成功のため、自身の成長のため、多くの出会いのため、10人の仲間と無理をせず楽しみながら、都市ボランティアに参加していきたいと思っています。皆さんも皆さんなりの楽しみ方で、この大会を盛り上げ、多くの思い出を作れるように私は願っています。



ホストファミリー体験記 「ドイツの女の子と1週間」 ～スマホアプリvs父母教情報？～

教育学部

日本とドイツのスポーツ少年団交流は50年近く続いていて、毎年夏休みにお互いの派遣団の受入交流をしています。父がスポーツ少年団の役員をしている関係で、千葉県受入団のうち1名が我が家にホームステイすることになりました。

グローバルとは全く無縁の我が家は大騒ぎになりました。問題は二つです。一つは言葉。もう一つは食事です。受入マニュアルに「共通語は英語」「食事は主義主張があるから十分に好みを聞いて」と書いてありました。まずは言葉ですが、父も兄も英語とはほぼ無縁の公務員、母も大学を出てから全く英語には触れていないと言い、3人が口をそろえて「お前は大学生なんだから」という理由で私が通訳者になりました。迷惑な話です。食事については、父が文教大学父母と教職員の会千葉県支部の懇親会で、ご主人がドイツ駐在員だったという会員の方から重要な情報を仕入れてきました。ドイツの子の好きなものは二つ。フルーツと炭酸水だそうです。この情報は父から千葉県内の受入家庭すべてに伝達され、後で大変感謝されました。

さて、英語が苦手な私はスマホの翻訳アプリを駆使することにしました。音声でも、キーボード入力でも、手書きでも瞬時にドイツ語に翻訳してくれる優れものです。これで何の心配もありません。我が家にやってきたのはエミリーという私と同年のとてもかわいい女の子です。ウェルカムパーティーで出会い、簡単に自己紹介した後、翻訳アプリを駆使して会話に挑戦しました。エミリーも同じようなアプリを持っていました。しかし、なぜか思うように通じず、意思の疎通ができません。例えば、「日本の食べ物でどんなものが苦手ですか」という質問に「シャープなもの」という答えが返ってきました。私が「わからない」と答えると、またいろいろ入力して「痛いもの」という日本語

を見せてきました。シャープな食べ物？痛い食べ物？なんだろう、魚の骨かな？と思いを巡らし、会話が前に進みません（後でわかったことですが、彼女は「辛（から）いもの」と伝えなかったようです）。こんな調子ですから私がアプリを通して伝えても、エミリーはなんだか微妙な顔をすることが多く、出会ってわずか10分でアプリを使うことをやめました。そのあとはお互い英語を共通語として身振り手振りで単語帳を片手に話しました。正確に伝わっているかは怪しいのですが、雰囲気は明るくなり、笑い声をあげながら話すことができました。家族で食卓を囲んでいると当然日本語が飛び交いますが、そんなときエミリーは私の顔をじっと見つめて「訳して」と目で要求してきます。そこで私は家族に「エミリーの前では日本語は禁止にしよう」と提案しました。最初はみんな無口になりましたが慣れてくると、エミリーと母の会話にみんなが同時に笑うという奇跡も起きました。「スマホがあれば何でもできる」と信じていた私。スマホの中に答えはないことがわかりました。

食事のほうは「魚は食べません」と宣言していた子でしたが、それ以外は豆腐でも梅干でも箸を上手に使って「オイシイ」とよろこんで食べてくれました。そして、情報通りフルーツと炭酸水は不可欠で、特に炭酸水は手放しません。逆に炭酸水以外を飲んでいるところは見たことはありませんでした。

わずか1週間のホームステイでしたが、父からは「『スマホより父母教の懇親会の情報の方が役に立つ』と書いて」と言われましたが、それも一理ありますが、教育学部の学生らしくまとめみると、新しい学習指導要領が求める「外国語やその背景にある文化を、他者との関わりに着目して捉える」というのはこのようなことであろうと思いました。

編集後記

新型コロナウイルス感染症の影響により、役員による編集作業が行えませんでした。総会をはじめ様々な行事が中止になっている中、せめて会報は発送したいというのが役員の総意でした。原稿はメール等で提出していたが、一部役員による責任編集といたしました。

発送作業もみんなで集まることができずに途方に暮れていましたが、ふと見渡すと私の周りには多くの文教大生・卒業生がいます。長男、長女をはじめ、部下、後輩…、みんなオンライン授業とか、在宅勤務、テレワークと言っていたので「仕事や勉強の休憩時間に！」と、無理矢理お願いしてなんとか発送をすることができました。コロナ禍の中で人のつながりの大切さを改めて感じました。